

# 丸森町における除去土壌埋立処分の 実証事業について

令和5年11月17日、18日  
環境省 環境再生・資源循環局  
環境再生事業担当参事官室

# 目次

## 1. 除去土壌の処分と現状について

- (1) 除染の実施
- (2) 丸森町における除去土壌・除染廃棄物の保管状況
- (3) 福島県外における除去土壌・除染廃棄物の保管状況
- (4) 除去土壌の処分方法について
- (5) 除去土壌の埋立処分に関する検討の経緯

## 2. 丸森町における除去土壌の埋立処分の実証事業の概要

- (1) 丸森町における実証事業の目的と調査内容
- (2) 実証事業の実施場所
- (3) 実証事業の埋立場所の構造
- (4) 埋立処分の実証事業における確認項目
- (5) 実証事業の経過

## 3. 除去土壌と除染廃棄物の性状と除染廃棄物の分別

- (1) 除去土壌等の放射能濃度
- (2) 分別作業の様子
- (3) 除去土壌・除染廃棄物の分別の結果
- (4) 分別物の概要
- (5) 分別した枝葉のチップ化
- (6) 除去土壌と分別した「土壌・腐葉土」の埋立方法

## 4. 実証事業のモニタリング結果

- (1) 埋立作業
  - 埋立場所 ①作業者の個人被ばく線量
  - ②大気中の放射能濃度
  - 周辺環境の安全 ①空間線量率
- (2) 埋立後の管理
  - 埋立場所 ①空間線量率
  - ②作業者の個人被ばく線量
  - ③浸透水中の放射能濃度
  - 敷地境界 ①空間線量率
  - ②大気中の放射能濃度
- (3) 実証事業の主な結果

## 5. その他

- (1) 今後のスケジュール
- (2) 問合せ先

# 1. 除去土壌の処分と現状について

# (1) 除染の実施

放射線の影響を低減するため、各市町村で除染を実施

住宅の庭等の除染の例



未舗装道路の除染の例



校庭の除染の例



農地の除染の例



## (2) 丸森町における除去土壌・除染廃棄物の保管状況

除染により発生した除去土壌・除染廃棄物を町内25か所の仮置場において保管中

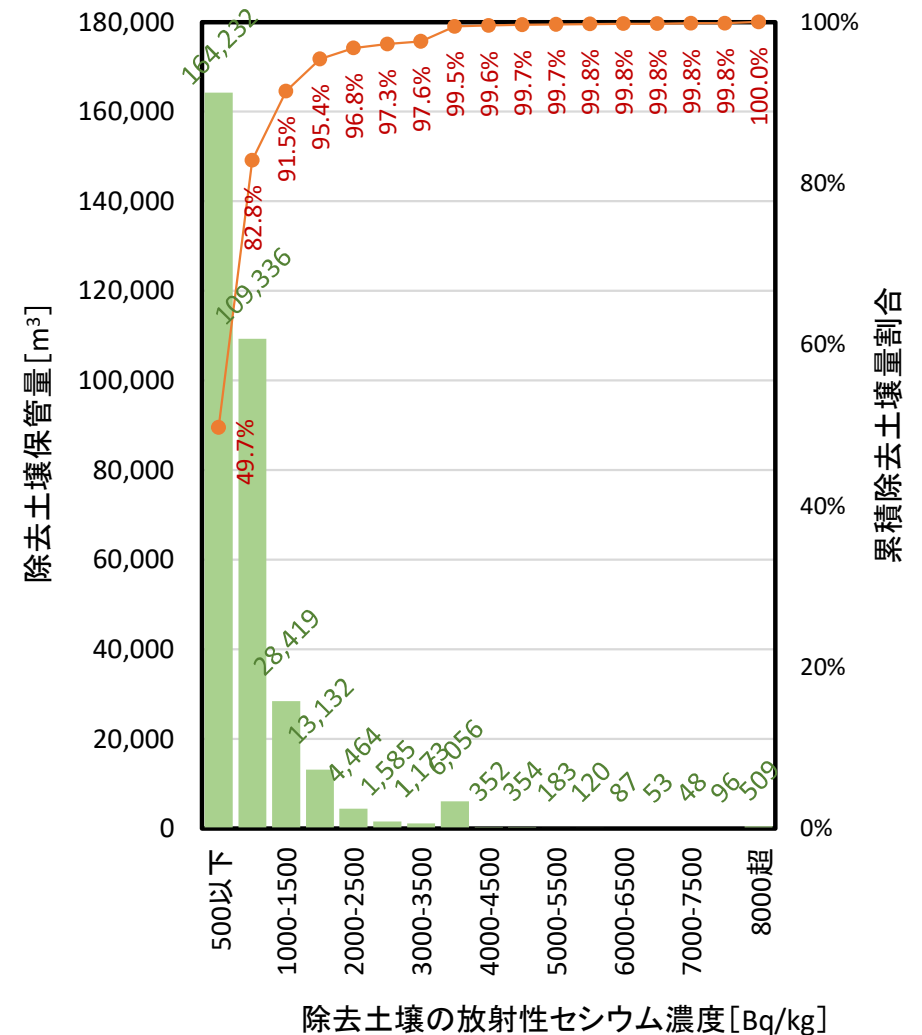


# (3) 福島県外における除去土壌・除染廃棄物の保管状況

福島県外において保管されている除去土壌の放射性セシウム濃度を推計した結果、中央値は500Bq/kg程度、約95%は2,000Bq/kg以下であった。

(2023(R5)年3月末時点)

	除去土壌		除染廃棄物	
	保管箇所数	数量(m <sup>3</sup> )	保管箇所数	数量(m <sup>3</sup> )
岩手県	315	26,550	2	24
宮城県	161	29,141	563	68,047
(うち、丸森町)	44	15,233	25	66,388
茨城県	1,034	52,964	13	3,530
栃木県	24,747	111,063	8,722	70,579
群馬県	755	4,602	13	572
埼玉県	48	7,252	0	0
千葉県	1,668	98,627	2	12
合計	28,728	330,198	9,315	142,763



※丸森町の仮置場には、除染土壌と除染廃棄物の両方が保管されている。  
 ※除去土壌の44箇所は、仮置場の数(25)＋現場保管箇所19箇所の和。

# (4) 除去土壌の処分方法について

## 除染の進捗

福島県外(岩手県、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県)の市町村等による除染は逐次適切に進められ、2018(H30)年3月末で除染が完了。

## 除去土壌の保管

除染に伴って発生した土壌(除去土壌)は、市町村等において適切な方法により安全に保管されている。

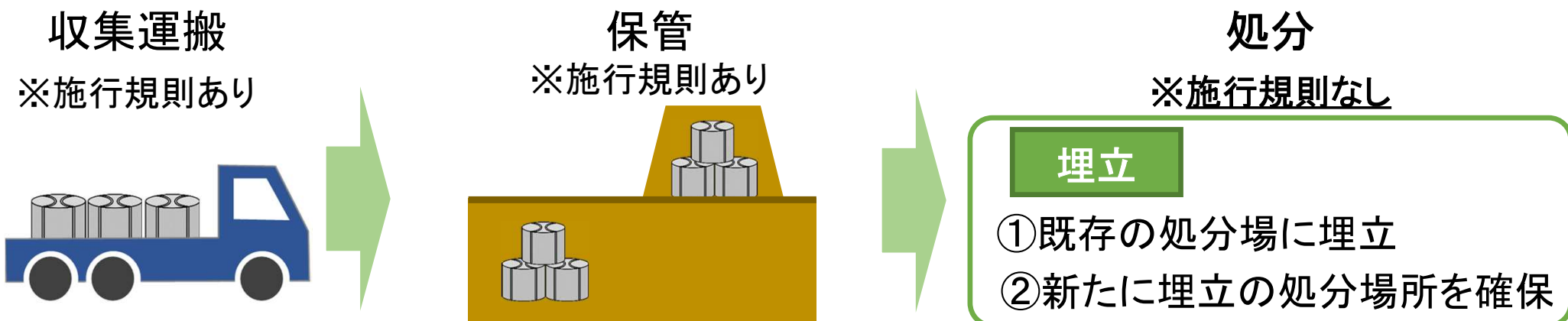
<保管の方法>  
飛散流出防止、雨水浸入防止、遮蔽又は離隔、周囲の囲い、掲示板、空間線量率の測定等を実施。



保管場所の例

除去土壌の処分方法の検討については、福島県外の市町村等(除染実施者)が、適切な方法により安全に保管している除去土壌を集約して埋立の処分を行うことを選択する場合に、管理が市町村等によって適切に行われる埋立の処分方法について検討。

実証事業を通じて管理の安全性について確認を行っている。



「当面の考え方」〔2011(H23)年6月3日、原子力安全委員会〕

東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けたものであり、かつ、廃棄しようとするもの(注:除染活動に伴い発生する土壌を含む)の処理処分等に関する安全確保について、これまでに原子力安全委員会が策定した指針類や今回の事故で行われてきた助言等を踏まえて、当面適用すべき考え方や安全確保に関する考え方が示されている。

具体的に、埋立処分(管理期間中)に係る考え方については以下のように示されている。

周辺住民及び処理等に携わる作業者の放射線被ばくが、合理的に達成できる限り低くなるよう対策が講じられることが重要である。

- ・ 周辺住民の受ける線量が 1 mSv/年 を超えないようにする。
- ・ 作業者の受ける線量 についても、可能な限り 1 mSv/年 を超えないことが望ましい。

「当面の考え方」を参考に埋立処分方法を検討



# (5) 除去土壌の埋立処分に関する検討の経緯

2017年9月	第1回検討チーム会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確保の論点について議論</li> <li>・埋立処分の実証事業の実施を決定</li> </ul>
2017年12月	第2回検討チーム会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋立処分の実証事業における確認事項などについて決定</li> </ul>
2018年8月	茨城県東海村における実証事業開始	
2018年9月	第3回検討チーム会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業の実施状況、自治体アンケート調査結果について報告</li> <li>・省令、ガイドラインに規定すべき事項について議論</li> </ul>
2018年9月	栃木県那須町における実証事業開始	
2019年3月	第4回検討チーム会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業中間取りまとめ案について議論</li> </ul>
2019年5月	実証事業中間取りまとめを公表	
2019年9月	栃木県那須町における実証事業終了	
2019年12月	第5回検討チーム会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業の結果について報告</li> <li>・ガイドラインの技術的事項について議論</li> </ul>
2020年12月	第6回検討チーム会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業の結果（埋立後モニタリング、追加土壌分析）について報告、表面線量率からの濃度推計について議論</li> <li>・関係自治体の意見整理（事例の蓄積による理解醸成、草木類が混在する土壌の取扱い等が課題）</li> </ul>
2021年7月	丸森町における除去土壌の埋立処分に係る実証事業に関する住民説明会	
2021年12月	丸森町における実証事業開始	
2022年2月	第7回検討チーム会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業の結果（埋立後モニタリング）について報告</li> <li>・除染廃棄物の分別（実証事業及び予備調査）について議論</li> </ul>
2022年9月	丸森町での除去土壌埋立処分実証事業の埋立作業の見学会	
2023年2月	第8回検討チーム会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業の結果（埋立後モニタリング）及び実施状況について報告</li> <li>・除染廃棄物から分別した土壌に関する知見について議論</li> </ul>

## 2. 丸森町における除去土壌の埋立処分の 実証事業の概要

# (1) 丸森町における実証事業の目的と調査内容

## 目的

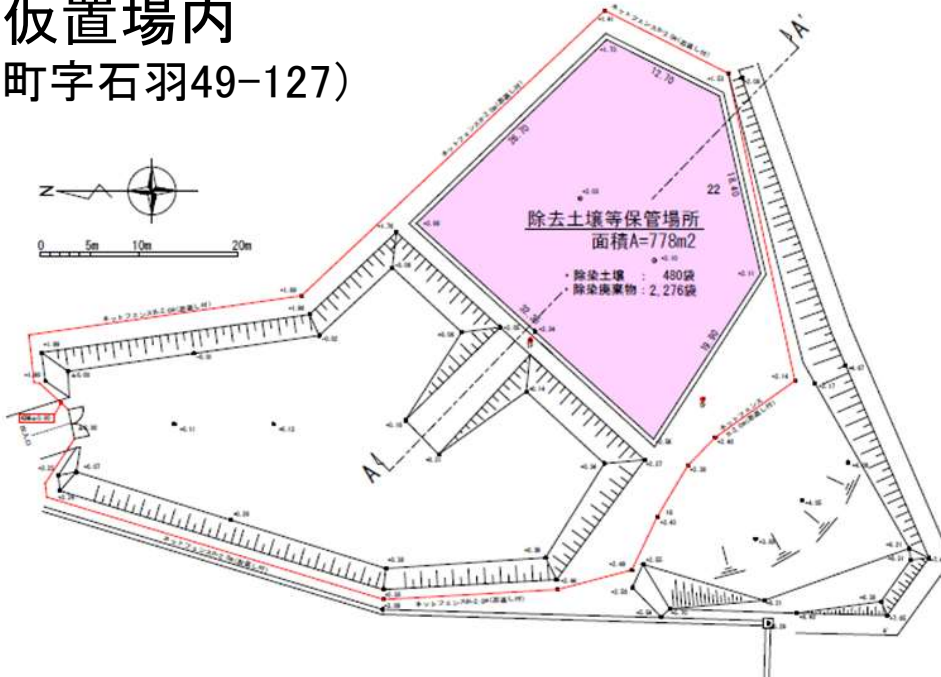
- 除去土壌の埋立処分により、周辺居住者の健康と生活環境に悪影響がないこと及び作業員の安全性に問題がないことを確認する。
- 安全に除染廃棄物から除去土壌を分別し、埋立処分を行えることを確認する。

## 調査内容

- 上滝仮置場に保管している除去土壌等約2800袋を取り出し、土壌と可燃物等との分別。
- 分別土壌等を同敷地内に埋め立てた後、空間線量や浸透水の放射性物質濃度のモニタリング等を実施し、安全性についてのデータを集積。

# (2) 実証事業の実施場所

上滝仮置場内  
(丸森町字石羽49-127)



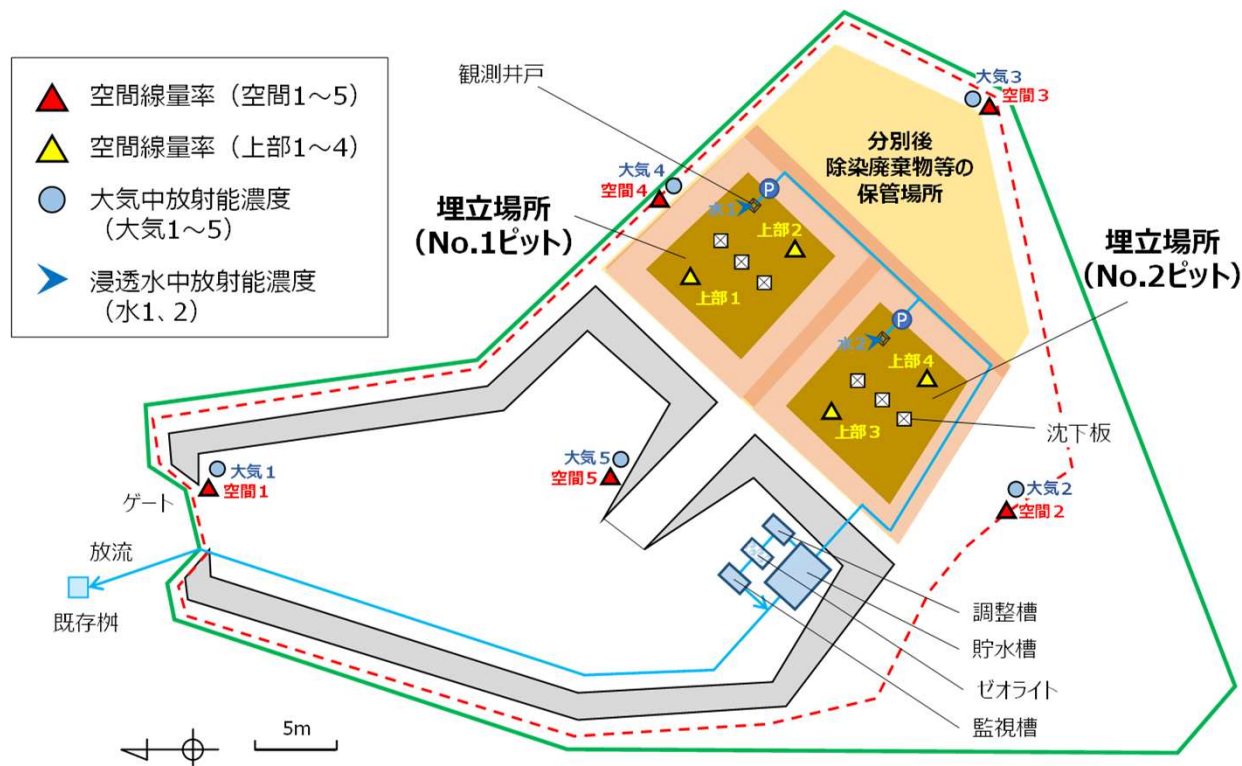
出典: 丸森町ホームページ/まるもりマップ



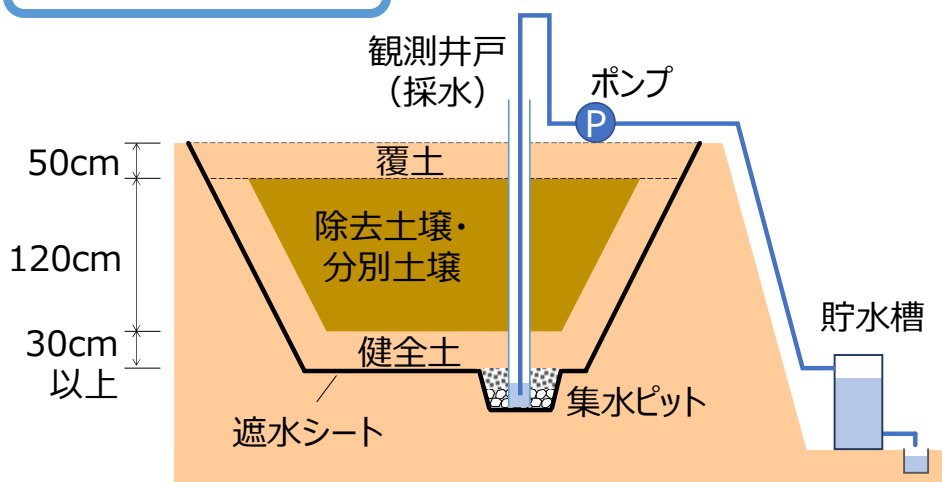
出典: 国土地理院ウェブサイト  
<https://maps.gsi.go.jp/#15/37.875091/140.778551/&base=std&is=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

# (3) 実証事業の埋立場所の構造

## 埋立平面図



## 埋立断面図



## 埋立方法

ピット	No.1	No.2
埋立対象物	除去土壌: 88.7m <sup>3</sup>	除去土壌: 44.3m <sup>3</sup> 分別土壌: 44.3m <sup>3</sup>
埋立方法	除去土壌	分別土壌 除去土壌

※埋立に使用しなかった分別後の土壌は保管

# (4) 埋立処分の実証事業における確認項目

## 実証事業のイメージと主な確認項目

### 1) 埋立作業(状態の確認・破袋・埋立)

#### ■除去土壌の性状判断

##### ①表面線量率測定

サンプル調査(放射能濃度測定)も実施

#### ■埋立場所

- ①作業者の個人被ばく線量測定
- ②大気中の放射能濃度測定  
(ダストサンプリング)

#### ■周辺環境の安全

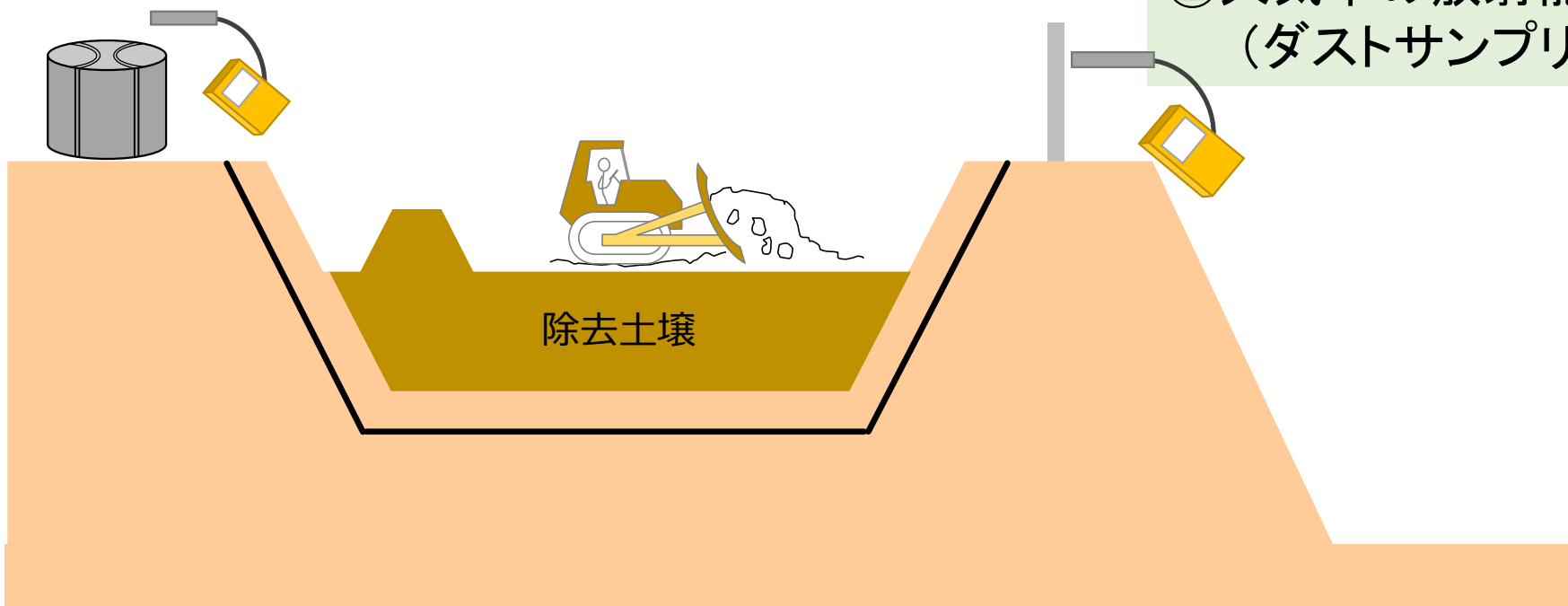
- ①空間線量率測定
- ②大気中の放射能濃度測定  
(ダストサンプリング)

状態の確認

破袋・分別

埋立

敷地境界



# (4) 埋立処分の実証事業における確認項目

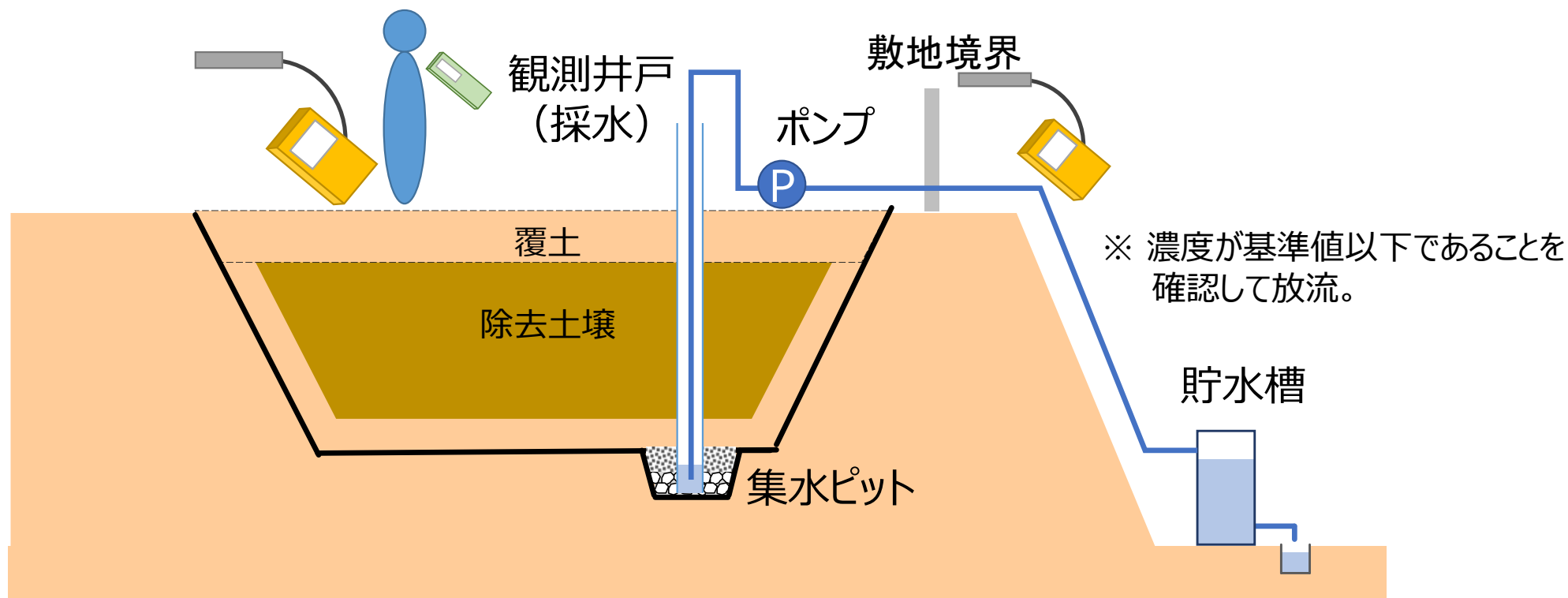
## 2) 埋立後の管理

### ■ 埋立場所

- ① 空間線量率測定
- ② 作業者の個人被ばく線量測定
- ③ 浸透水の放射能濃度測定

### ■ 敷地境界

- ① 空間線量率測定
- ② 大気中の放射能濃度測定  
(ダストサンプリング)



- 空間線量率の測定、作業者の個人被ばく線量測定、浸透水の放射能濃度測定は原状回復まで継続

# (5) 実証事業の経過

## 手順1 掘り起こし



令和3年12月～令和4年3月

## 手順2 分別



令和4年3月～8月頃

## 手順3 埋立



令和4年8月頃～10月

## 手順4 モニタリング



令和4年10月～

(実証事業着手前)



※R3年12月撮影

(作業後)



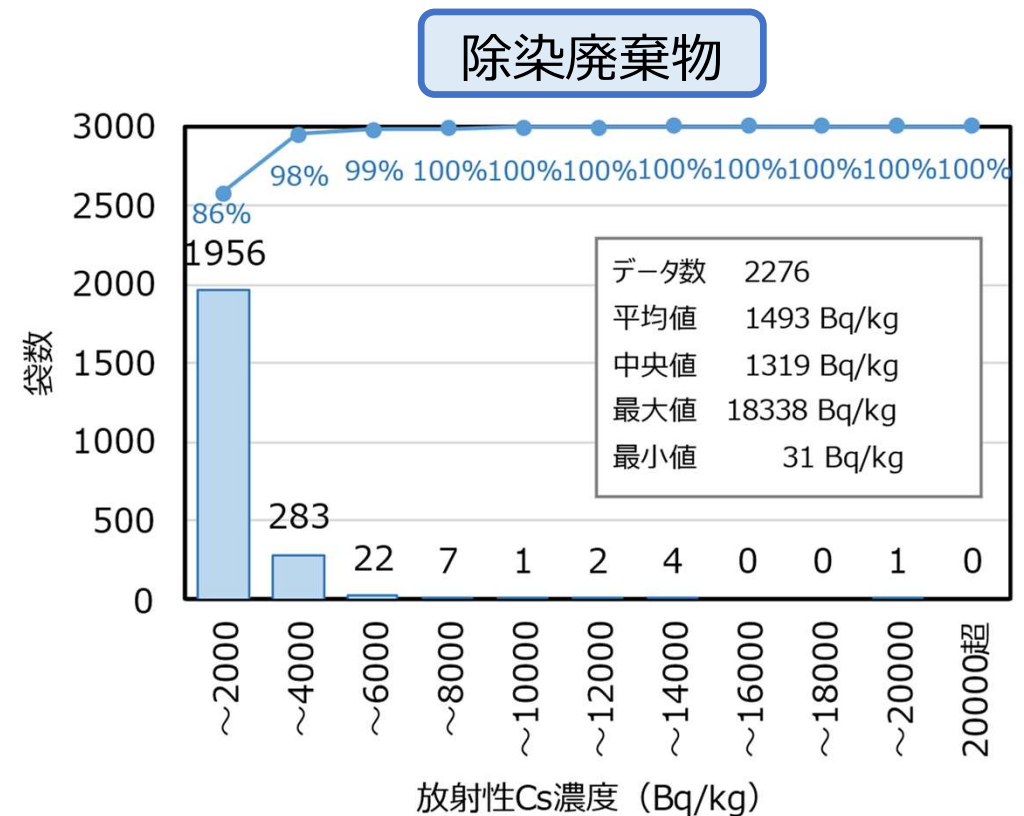
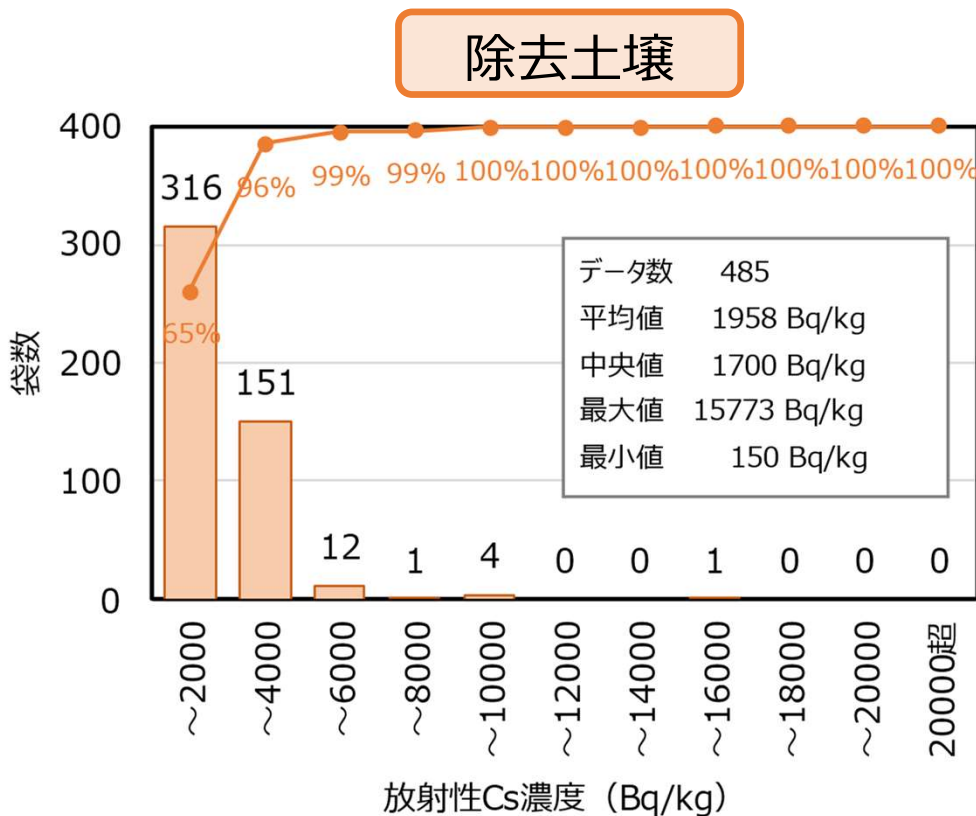
※R4年11月撮影



### 3. 除去土壌と除染廃棄物の性状と 除染廃棄物の分別

# (1) 除去土壌等の放射能濃度

- 上滝仮置場に保管されていた除去土壌(480袋)及び除染廃棄物(2,276袋)について、
  - 全袋について表面線量率を測定
  - うち165袋については放射能濃度を測定
- 表面線量率と放射能濃度の関係から、除去土壌と除染廃棄物の放射能濃度を推計。
- その結果、本事業で取り扱った除去土壌の放射能濃度は平均値 1,960 Bq/kg、除染廃棄物の放射能濃度は平均値 1,490 Bq/kg と推計。



※除去土壌については、昨年度予備調査で測定した5試料の値も含む

## (2) 分別作業の様子

- 処分を効率的に進めるため、除去土壌と除染廃棄物の袋の中身を確認し、それぞれ「土壌」「腐葉土」「枝葉・草木」などに分別。

内容物の確認



試料採取



分別 i \_破袋作業



分別 ii \_分別開始



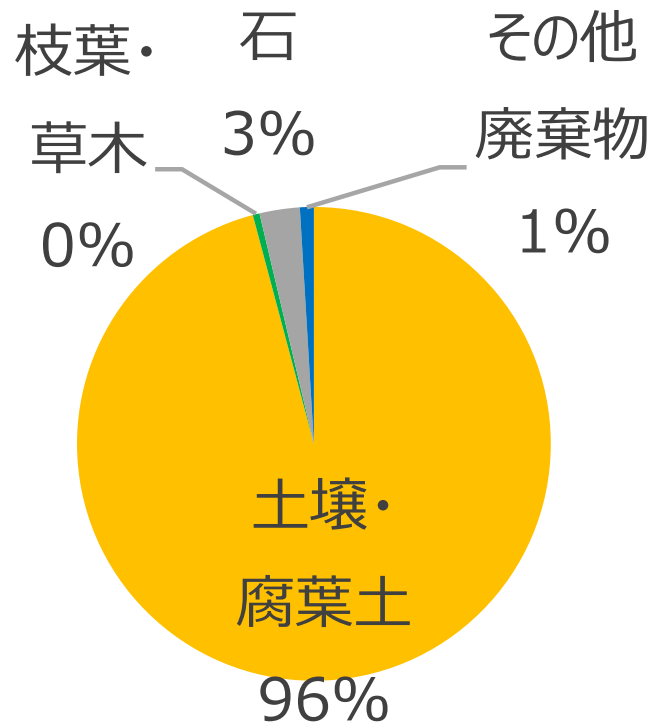
分別 iii \_分別後の土壌



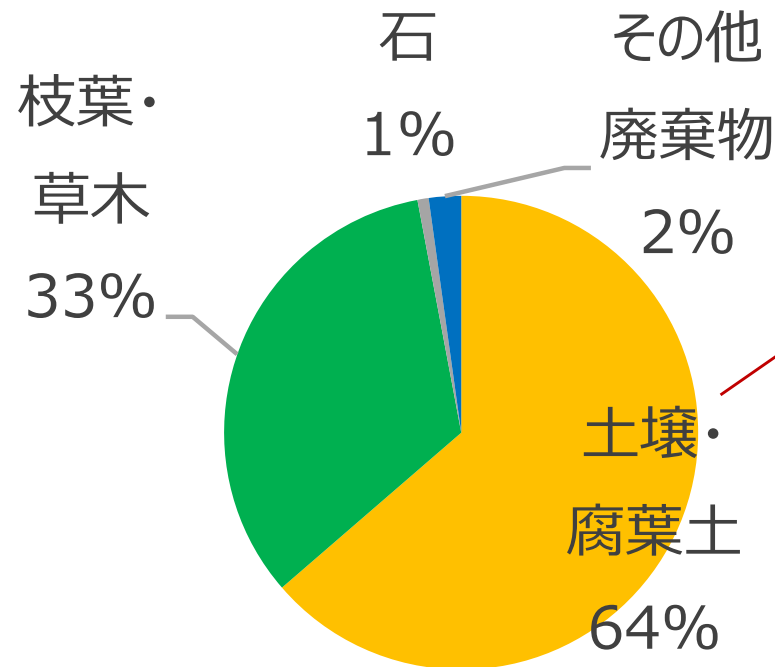
### (3) 除去土壌・除染廃棄物の分別の結果

- 上滝仮置場に保管されていた除去土壌(計480袋)及び除染廃棄物(計2,276袋)を分別。
- 分別の結果、除染廃棄物には「土壌・腐葉土」の成分が多く含まれていた。
- 今回の埋立実証事業では、除去土壌に加え、除染廃棄物から分別した「土壌・腐葉土」を埋立処分を行った場合についても、周辺環境等への影響を調査。

除去土壌の分別結果





除染廃棄物の分別結果



除染廃棄物から分別した「土壌・腐葉土」を埋立処分した場合の影響も調査

# (4) 分別物の概要

土壌	腐葉土
<b>193 t</b> (約 145 m <sup>3</sup> )	<b>238 t</b> (約 433 m <sup>3</sup> )
	

<比重の設定>

組成	比重	設定根拠
土壌	1.33	R2丸森町予備調査（室内試験湿潤密度）
腐植土	0.55	R2丸森町予備調査（室内試験湿潤密度）
枝葉・草木	0.40	R3丸森町実証事業（チップ化した枝葉・草木のかさ密度の平均）
石	2.65	丸森町に多い花崗岩の比重を採用
その他廃棄物	0.35	「廃プラスチック類」の重量換算係数を採用（JWNET）

枝葉・草木	石 (大きい石を含む)	その他 (金属、プラスチック、コンクリート片等)
<b>126 t</b> (約 315 m <sup>3</sup> )	<b>8 t</b> (約 3 m <sup>3</sup> )	<b>10 t</b> (約 29 m <sup>3</sup> )
		

# (5) 分別した枝葉のチップ化

- 分別した枝葉は、減容を目的としてチップ化

①振動篩機（スクリーン目開40mm）を通過しなかった枝葉をトレイに集積



②枝葉を木材破砕機に投入



③破砕機より排出するチップ

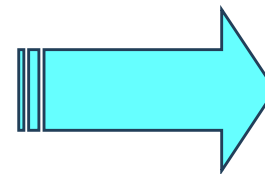


④チップをフレコン袋詰め



## チップ化の減容化効果

チップ化前	チップ化後
256袋	151袋



減容化率: 約60%



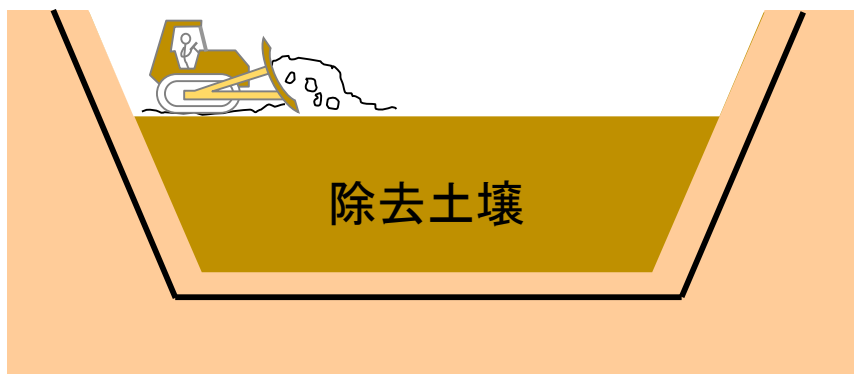
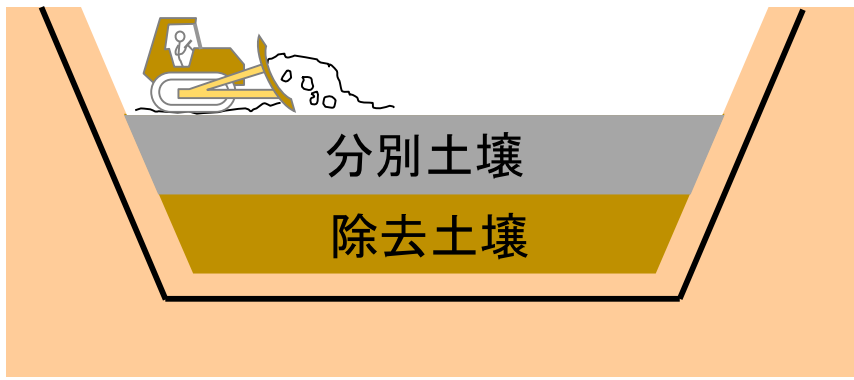
30袋を分析

チップ化後の枝葉等の除染廃棄物は、放射性物質濃度の平均値 197 Bq/kg、袋の表面線量率の平均値 0.06  $\mu$ Sv/h となり、放射性物質の影響の小さな物に分別できたといえる。

# (6) 除去土壌と分別した「土壌・腐葉土」の埋立方法

- 除去土壌に加えて、除染廃棄物から分別した「土壌・腐葉土」を埋立処分した場合の影響等を確認するため、「土壌・腐葉土」についても埋立を実施。
- これまでの実証事業との比較の観点からNo.1ピットには除去土壌のみを埋立
- No.2ピットには、現場での作業効率等の観点から、交互/層状方式を採用。除去土壌及び分別土壌(除染廃棄物から分別した土壌)を二層にして埋立

## 埋立方法

ピット	No.1	No.2
埋立対象物	除去土壌: 88.7m <sup>3</sup>	除去土壌: 44.3m <sup>3</sup> 分別土壌: 44.3m <sup>3</sup>
埋立方法		

※埋立に使用しなかった分別後の土壌は保管

## 4. 実証事業のモニタリング結果



# 埋立作業時におけるモニタリング項目

## 1) 埋立作業(状態の確認・破袋・埋立)

### ■ 埋立場所

- ① 作業者の個人被ばく線量測定
- ② 大気中の放射能濃度測定  
(ダストサンプリング)

### ■ 周辺環境の安全

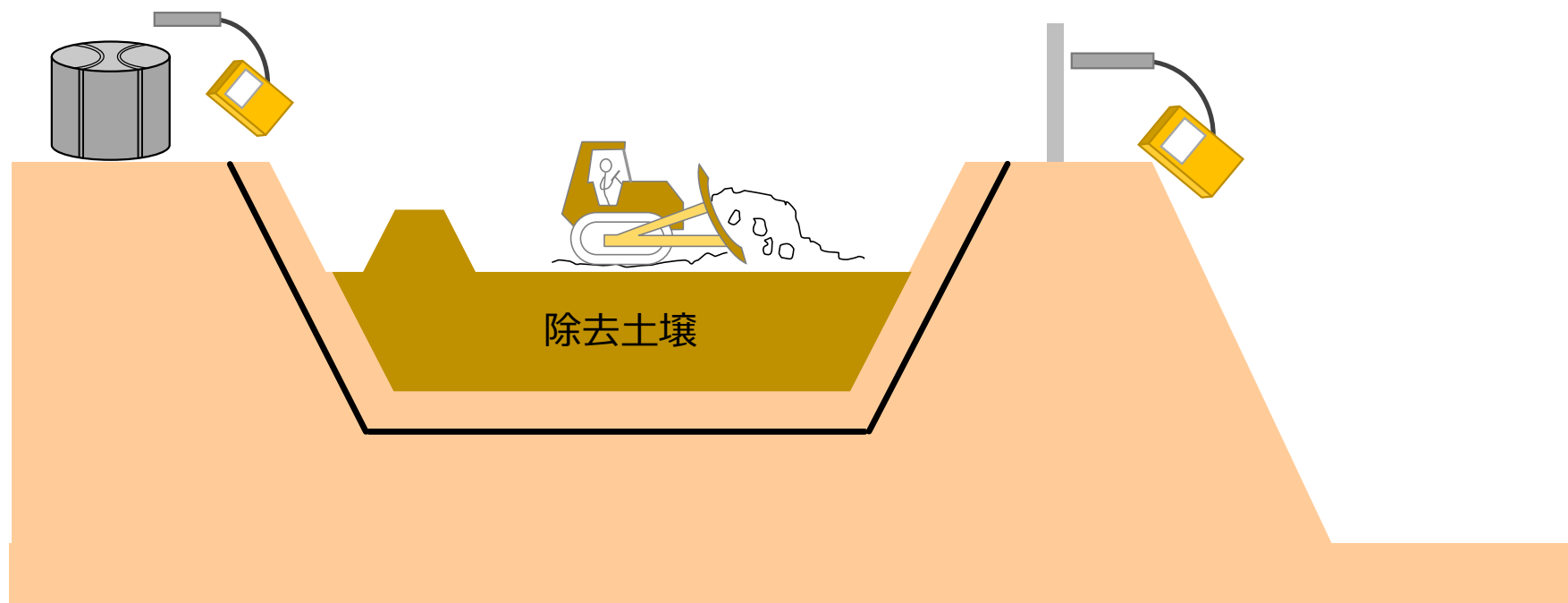
- ③ 空間線量率測定

状態の確認

破袋・分別

埋立

敷地境界



# (1) 埋立作業…… ①作業者の個人被ばく線量

- ◆埋立作業中の作業者が受ける個人被ばく線量
- 実証事業の開始から覆土完了までの間、作業者の個人被ばく線量を測定。
- 埋立作業の項目ごとの日平均被ばく線量の最大値は  $0.71 \mu\text{Sv}/8\text{h}$  であった。  
(除去土壌等以外から受ける放射線量を含む。1日8時間作業。)

本作業に1年間(250日間)従事したとしても、個人あたりの年間被ばく線量は、

$$0.71 \mu\text{Sv}/\text{日} \times 250 \text{ 日} = 178 \mu\text{Sv} = 0.18 \text{ mSv}$$

$$(1 \mu\text{Sv} = 0.001 \text{ mSv})$$

であり、1 mSv を下回った。



個人線量計の例

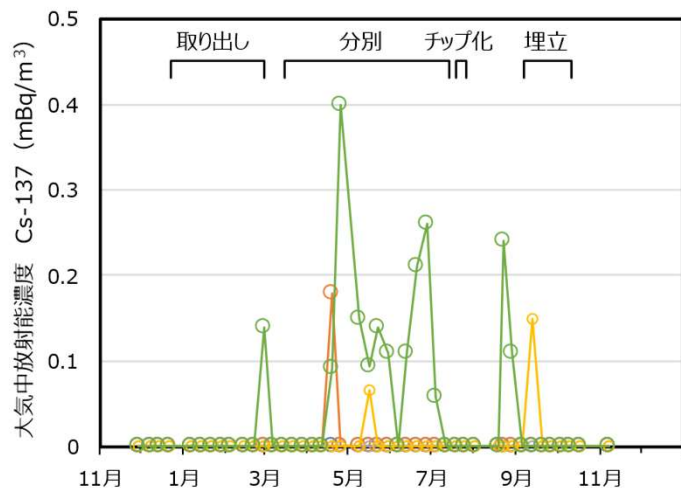
# (1) 埋立作業…… ②大気中の放射能濃度

## ◆埋立作業中の大気中放射能濃度

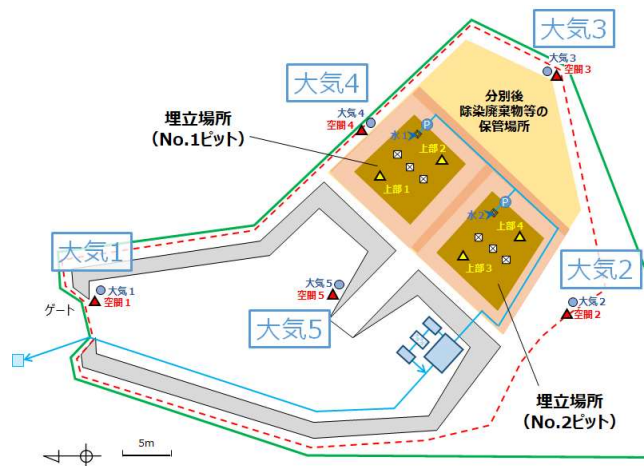
- 実証事業の開始から覆土完了までの間、大気中放射能濃度を測定。
- 分別作業箇所(大気5)では、分別作業期間中(17週間:17検体)に10検体でCs-137が検出された。(最大値は  $0.4 \text{ mBq/m}^3$ )
- 敷地境界(大気1~4)では、分別作業期間や埋立作業期間において、3検体でCs-137が検出された。(最大値は  $0.18 \text{ mBq/m}^3$ )

防護を行わなかったと仮定した場合、採取期間中のCs-137による作業者の追加被ばく線量(吸入)は、 $0.00000013 \text{ mSv}$ と推計され、 $1 \text{ mSv}$ を下回った。

(作業員は保護マスクを着用するため、通常は粉じんの吸入はない。)



● 大気1 北地点  
● 大気2 西地点  
● 大気3 南地点  
● 大気4 東地点  
● 大気5 分別作業箇所



ハイボリウム  
エアサンプラー

※検出下限未満の場合は、0としてプロット。検出下限値 Cs-134:  $0.045 \sim 0.099$ 、Cs-137:  $0.044 \sim 0.10$  ( $\text{mBq/m}^3$ )

# (1)埋立作業…… ③空間線量率(敷地境界)

## ◆埋立作業時の敷地境界における空間線量率

- 実証事業の開始から覆土完了までの間、敷地境界4地点における空間線量率を測定。(分別作業場所の空間線量率も測定)
- 実証事業準備期間中は  $0.05 \sim 0.08 \mu\text{Sv/h}$ 、実証事業作業期間中は  $0.05 \sim 0.09 \mu\text{Sv/h}$  であり、除去土壤の分別や埋立作業の前後で周辺環境の空間線量率に大きな変化はなかった。



## ■空間線量率の平均値

単位: 1時間当たりマイクロシーベルト[ $\mu\text{Sv/h}$ ]

作業区分	測定日	測定回数	敷地境界				敷地内	
			空間1	空間2	空間3	空間4	空間5	
準備期間	作業前	2021/11/29	1回	0.07	0.08	0.08	0.06	0.07
	雨水対策工事	2021/12/7~ 2021/12/22	12回	0.05	0.08	0.08	0.07	0.07
作業期間	取出し・分別・埋立	2021/12/23~ 2022/10/27	216回	0.05	0.09	0.08	0.07	0.11

※除去土壤以外から受ける放射線量を含む。



測定地点

# 埋立後におけるモニタリング項目

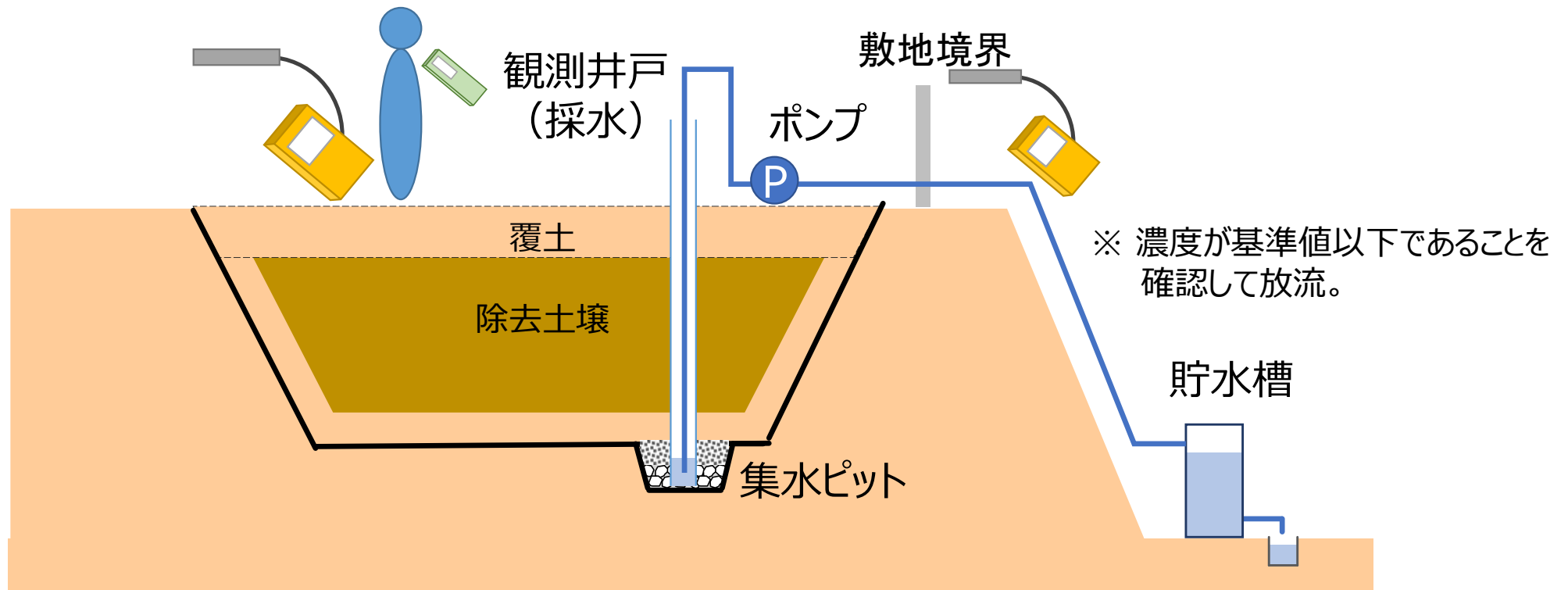
## 2) 埋立後の管理

### ■ 埋立場所

- ① 空間線量率測定
- ② 作業者の個人被ばく線量測定
- ③ 浸透水の放射能濃度測定

### ■ 敷地境界

- ④ 空間線量率測定
- ⑤ 大気中の放射能濃度測定  
(ダストサンプリング)



- 空間線量率の測定、作業者の個人被ばく線量測定、浸透水の放射能濃度測定は原状回復まで継続

## (2) 埋立後の管理…… ①空間線量率

### ◆埋立後の埋立場所における空間線量率

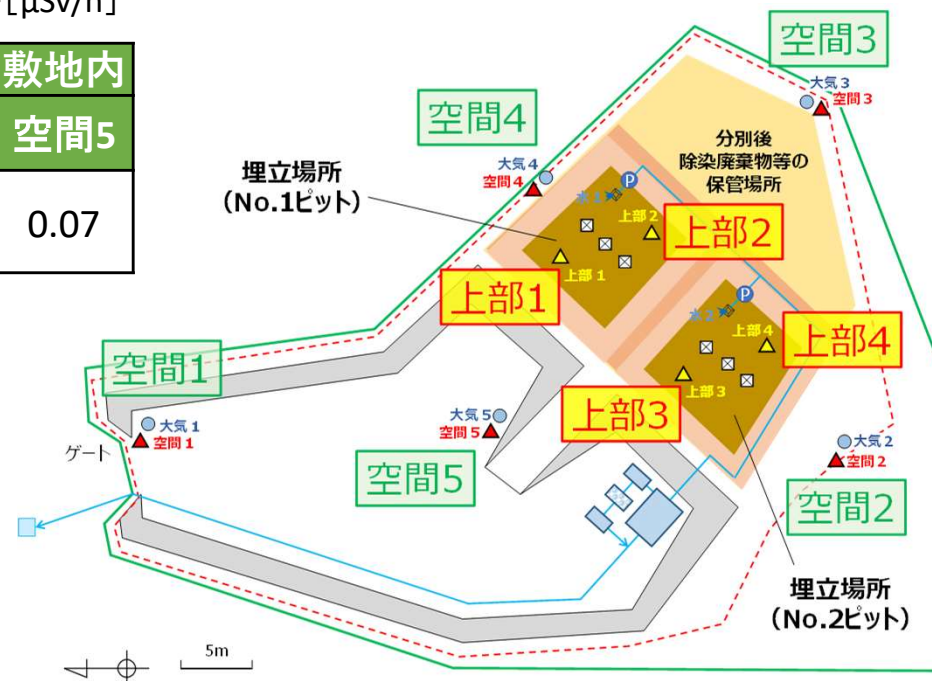
- 覆土完了から現在まで埋立場所の上部4地点における空間線量率を測定。
- 埋立作業前(敷地境界)は  $0.06 \sim 0.08 \mu\text{Sv/h}$ 、  
埋立後管理期間中(埋立場所上部)は  $0.08 \sim 0.09 \mu\text{Sv/h}$  であり、埋立作業前の敷地境界の空間線量率と比べて大きな変化はなかった。

### ■空間線量率の平均値

単位: 1時間当たりマイクロシーベルト [ $\mu\text{Sv/h}$ ]

作業区分	測定日	測定回数	敷地境界				敷地内
			空間1	空間2	空間3	空間4	空間5
作業前	2021/11/29	1回	0.07	0.08	0.08	0.06	0.07

作業区分	測定日	測定回数	埋立場所上部			
			上部1	上部2	上部3	上部4
作業後	埋立後① 2022/11/2～ 2023/4/26	25回	0.09	0.09	0.09	0.09
	埋立後② 2023/5/2～ 2023/9/20	21回	0.08	0.09	0.08	0.09



測定地点

※除去土壌以外から受ける放射線量を含む。

## (2) 埋立後の管理…… ② 作業者の被ばく線量

### ◆ 埋立後管理期間中の作業者がうける個人被ばく線量

- 埋立後管理期間中の作業者(モニタリング作業等)の個人被ばく線量を測定。
- 1時間当たりの個人被ばく線量の平均値は  $0.04 \mu\text{Sv}$  であった。

(除去土壌等以外から受ける放射線量を含む。)

本作業に1年間(250日間×8時間)従事したとしても、個人あたりの年間被ばく線量は、

$$0.04 \mu\text{Sv}/\text{日} \times 250 \text{ 日} \times 8 \text{ 時間} = 80 \mu\text{Sv} = 0.08 \text{ mSv}$$

$$(1 \mu\text{Sv} = 0.001 \text{ mSv})$$

であり、1 mSv を下回った。

## (2) 埋立後の管理…… ③浸透水の放射能濃度

### ◆埋立後の浸透水の放射能濃度

- 埋立後の管理として、浸透水の放射能濃度を測定。
- その結果、浸透水から放射性セシウムは全く検出されなかった。

### ■浸透水中の放射能濃度

採水場所	測定日	測定頻度	測定回数	核種	放射能濃度 〔Bq/L〕	検出下限値 〔Bq/L〕
No.1ピット	2022/10/28～ 2023/10/4	1回/週	50回	Cs-134	検出下限値未滿	0.44～0.99
				Cs-137	検出下限値未滿	0.56～1.00
No.2ピット	2022/10/28～ 2023/10/4	1回/週	50回	Cs-134	検出下限値未滿	0.49～0.98
				Cs-137	検出下限値未滿	0.62～1.00

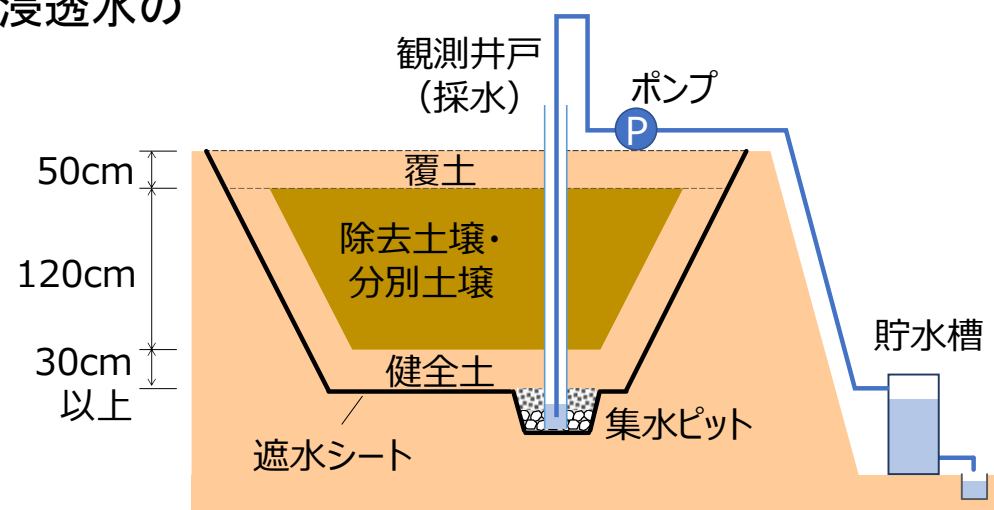
埋立場所から浸透し、集水ピットにたまった浸透水の放射能濃度を1週間に1回の頻度で測定。



<浸透水の採取>



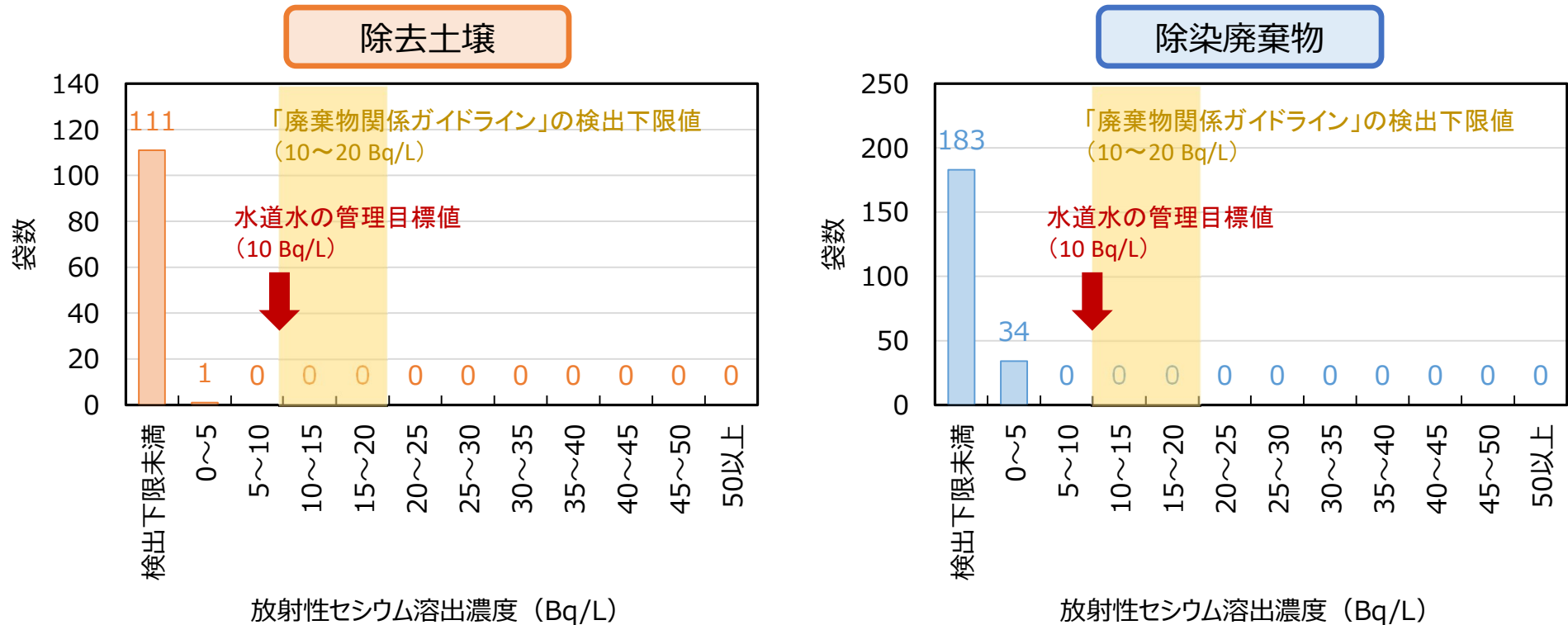
<pH・水温の測定>





# (参考) 除去土壌等の溶出特性

- 溶出試験は、土壌や廃棄物などから、どのような物質がどの程度溶け出してくるのかを調べるための試験(室内試験)。
- 試験の結果、わずかに放射性セシウムが溶出する検体が見られたが、前ページのとおり実際の浸透水中の放射能濃度は全て検出下限未満であった。
- このことは、除去土壌等からは放射性セシウムはほとんど溶け出さず、溶け出したとしてもすぐに周囲の土壌に吸着されるため、浸透水に出てこなかったものと解釈できる。



<参考> 水道水中の放射性物質の管理目標値 : 10 Bq/kg (= 10 Bq/L)  
 「廃棄物関係ガイドライン」の検出下限値 : 10~20 Bq/L  
 今回の溶出試験の検出下限値 : 1 Bq/L よりも小さな値

※試験対象は分別前と分別後。詳細調査を行った50袋に加え、容器の表面線量が閾値を超えた追加調査を行った袋も含む。

## (2) 埋立後の管理…… ④空間線量率(敷地境界)

### ◆埋立後の敷地境界における空間線量率

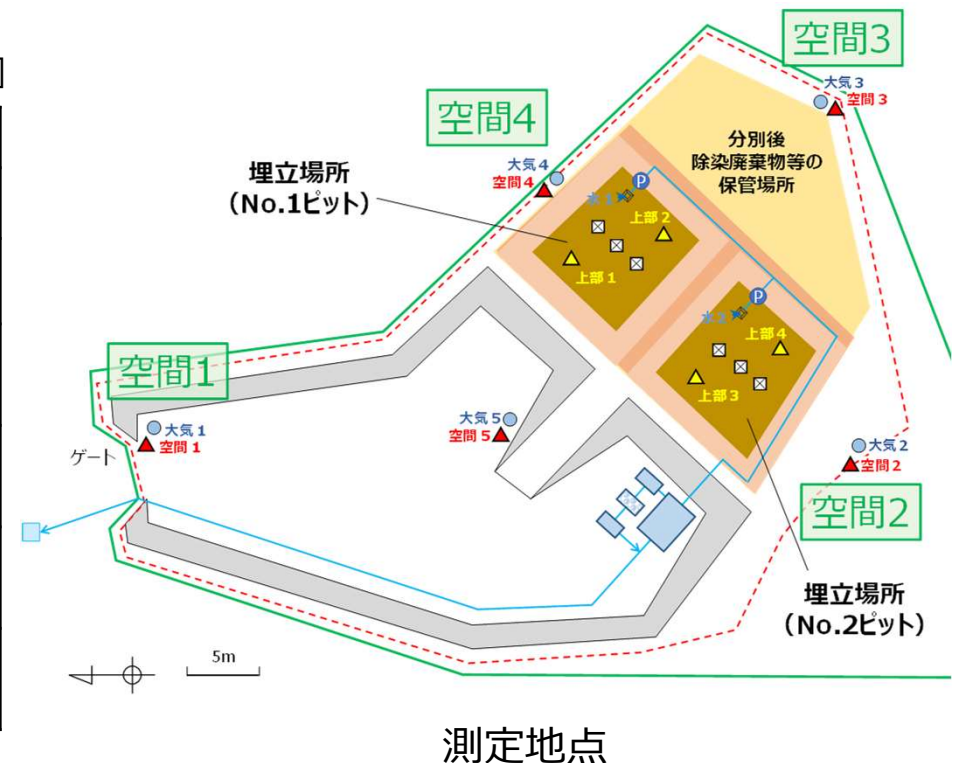
- 埋立後の管理として、敷地境界4地点における空間線量率を測定。
- 実証事業準備期間中は  $0.05 \sim 0.08 \mu\text{Sv/h}$ 、  
埋立後管理期間中も同様に  $0.05 \sim 0.09 \mu\text{Sv/h}$  であり、除去土壌の埋立前後で周辺環境の空間線量率に大きな変化はなかった。

### ■空間線量率の平均値

単位: 1時間当たりマイクロシーベルト [ $\mu\text{Sv/h}$ ]

作業区分	測定日	測定回数	敷地境界			
			空間1	空間2	空間3	空間4
作業前	2021/11/29	1回	0.07	0.08	0.08	0.06
作業中	雨水対策工事 2021/12/7~ 2021/12/22	12回	0.05	0.08	0.08	0.07
	取出し・分別・埋立 2021/12/23~ 2022/10/27	216回	0.05	0.09	0.08	0.07
作業後	埋立後① 2022/11/2~ 2023/4/26	25回	0.05	0.09	0.08	0.06
	埋立後② 2023/5/2~ 2023/9/20	21回	0.05	0.08	0.08	0.06

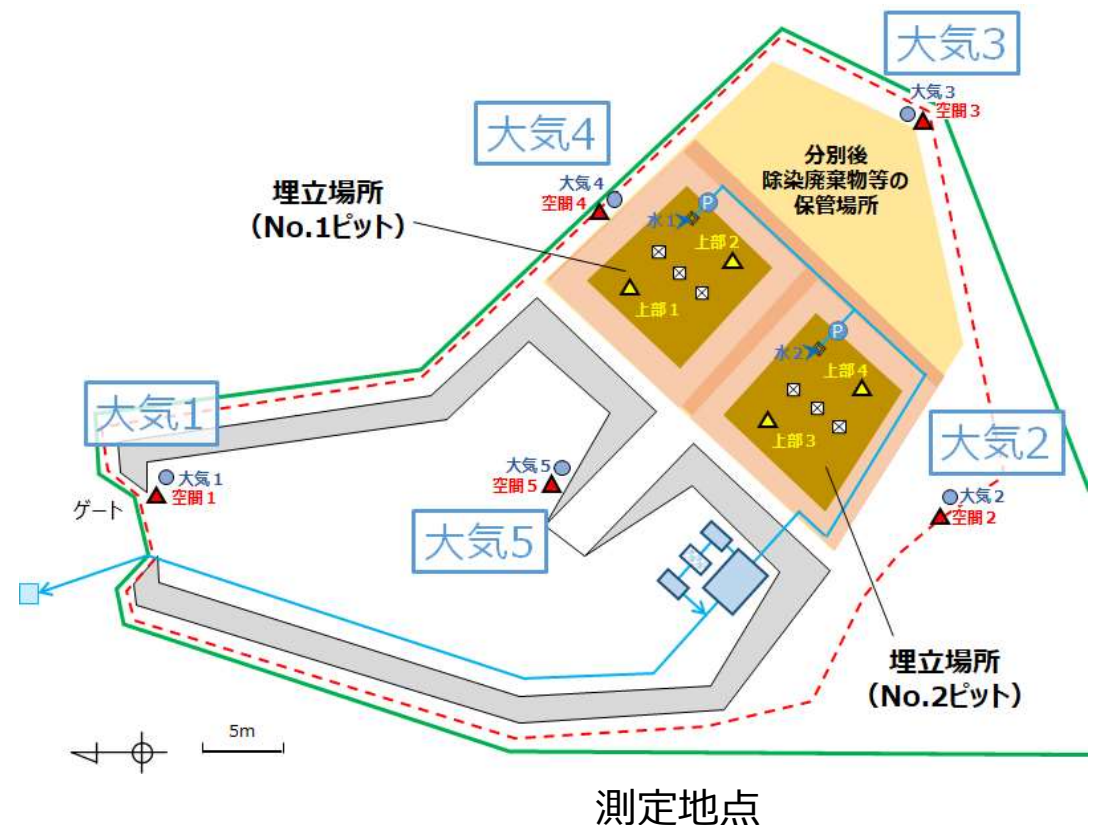
※除去土壌以外から受ける放射線量を含む。



## (2) 埋立後の管理……⑤大気中の放射能濃度(敷地境界)

### ◆埋立後の敷地境界における大気中放射能濃度

- 埋立後の管理として、敷地境界4地点における大気中放射能濃度を測定。
- 埋立後の敷地境界の測定(1回/月)では、大気中の放射能濃度は全て検出下限値未満※であった。



※2022年12月～2023年9月測定

<検出下限値>

Cs-134 : 0.054～0.082 (mBq/m<sup>3</sup>)

Cs-137 : 0.052～0.078 (mBq/m<sup>3</sup>)

測定地点

### (3) 実証事業の主な結果

#### ○除去土壌等の分別や埋立作業に伴う作業者への影響

- 除去土壌等からの放射線による作業者への影響を確認したところ、本作業に伴う作業者の年間被ばく線量は1mSVを下回ると推計されました。

#### ○除去土壌の埋立処分に伴う周辺環境への影響

- 周辺環境への影響を確認する事を目的として、空間線量率、大気中及び浸透水中の放射能濃度の測定を実施しました。
- その結果、実証事業の開始から終了まで、空間線量率及び大気中放射能濃度に大きな変化は見られず、浸透水中から放射性セシウムは検出されませんでした。
- 除染廃棄物から分別した「土壌・腐葉土」の埋立も行いましたが、除去土壌だけを埋め立てた場合と大きな違いは見られませんでした。
- したがって、丸森町における実証事業では、埋立から埋立後の管理の間に除去土壌の飛散・流出等による周辺環境への影響はなかったものと考えられます。

引き続き、本実証事業で測定された結果を踏まえ、「除去土壌の処分に関する検討チーム」において、適切な処分方法の検討を行ってまいります。

## 5. その他

## (1) 今後のスケジュール

- ・ モニタリングを終了し、今後、原状回復を行う。
- ・ 実証事業の結果について専門家による検討を行い、埋立処分の基準を策定する。

令和3年度	12月 2月24日 3月	工事着手(取り出し開始) 第7回検討チーム会合 分別開始
令和4年度	4月22日 9月～10月 10月 2月27日	検討チーム会合委員視察 埋立 埋立完了後モニタリング開始(約1年間) 第8回検討チーム会合
令和5年度	10月頃 12月以降	埋立完了後モニタリング終了 原状回復(予定) 第9回検討チーム会合(予定)

## (2) 問合せ先

### ■もっと詳しい情報はこちら

#### ○除染情報サイト(宮城県丸森町での実証事業)

[http://josen.env.go.jp/soil/demonstration\\_project\\_miyagi\\_marumori.html](http://josen.env.go.jp/soil/demonstration_project_miyagi_marumori.html)

#### ○除染情報サイト(除去土壌の処分に関する検討チーム会合)

[http://josen.env.go.jp/material/disposal\\_of\\_soil\\_removed/](http://josen.env.go.jp/material/disposal_of_soil_removed/)

#### ○放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料

<https://www.env.go.jp/chemi/rhm/r4kisoshiryo.html>

### ■お問合せ先

環境再生・資源循環局 環境再生事業担当参事官室 (担当: 山口)

電話: 03-5521-9260